平成22年度神戸市化学物質環境実態調査結果について

(1) 調査の概要

神戸市では平成10年度より、人や野生生物の内分泌をかく乱し、生殖機能を阻害するなど、有害な影響を及ぼす可能性が指摘されている環境ホルモン(外因性内分泌かく乱化学物質)について市域の実態を把握するため、独自に調査を行っており、平成21年度からは、内分泌かく乱作用以外に、残留性や使用実態を考慮し、広く化学物質全般の実態把握を行うこととし、環境省の化学物質環境実態調査のモニタリング物質や、従来の環境ホルモン調査で検出された物質、PRTR届出で排出移動量が多かった物質等の中から物質を選定し調査を実施している。平成22年度は、9物質について、河川4地点で水質の調査を実施した。

(2) 調査時期、頻度

平成23年1月18日 いずれの地点も年1回

(3) 調査地点

公共用水域測定地点から選定した、河川4地点(表4-6-1)

	No.	調査地点名(公共用水	域地点No.)
	1	有馬川・月見橋	(No. 6)
河川	2	志染川・坂本橋	(No.16)
	3	明石川・上水源取水口	(No.20)
	(4)	伊 川・二越橋	$(N_{0.27})$

表4-6-1 化学物質環境実態調査地点

(4) 調査項目及び調査方法

平成 22 年度は、前年度に引き続き、環境省の化学物質環境実態調査でモニタリングの対象となっている POPs (残留性有機汚染物質) 群のうち PCB 類 (ポリ塩化ビフェニル類)、アルドリン、ディルドリン、エンドリン、PFOA (パーフルオロオクタン酸)、PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸)、また、これまでの環境ホルモン調査で検出頻度の高かったビスフェノール A、17 β-エストラジオール、PRTR 届出で神戸市の届出量が他の自治体と比較して多いエピクロロヒドリンの 9 物質について調査を行った。調査方法は、環境省化学物質環境実態調査の分析方法、「外因性内分泌攪乱化学物質調査暫定マニュアル(水質、底質、水生生物)」(平成 10 年 10 月 環境庁水質保全局水質管理課)、「要調査項目等調査マニュアル(水質、底質、水生生物)」(平成 15 年 3 月 環境省環境管理局水環境部企画課)等によった。

	公 1 0 2
PCB類	熱媒体などに広く用いられた難分解性の物質。環境省モニタリング物質。
アルドリン	殺虫剤(農薬取締法登録は S50 年失効)環境省モニタリング物質。
ディルドリン	殺虫剤(農薬取締法登録は S50 年失効)環境省モニタリング物質。
エンドリン	殺虫剤(農薬取締法登録は S50 年失効)環境省モニタリング物質。
ビスフェノールA	樹脂の原料。魚類に対して内分泌かく乱作用が推察されている。
17 β-エストラジオール	人畜由来女性ホルモン。環境中で野生生物への内分泌かく乱作用が指摘されている。
エピクロロヒドリン	エポキシ樹脂などの原料。要監視項目物質。
PFOA	フッ素樹脂の製造に使用。環境省モニタリング物質。
PFOS	フッ素樹脂の製造に使用。環境省モニタリング物質。

表4-6-2 平成22年度の調査物質の概要

(5) 調査結果

化学物質環境実態調査結果を表4-6-3に示す。

ビスフェノール A、 17β -エストラジオール、エピクロロヒドリンは全地点で検出されなかったが、その他の物質は全地点で検出された。

いずれの検出値も、これまでの全国的な調査結果等の範囲内にあり、特に問題となる数値ではなかった。

3.100 旧,仍要从5.7人心内且相从(十次20 十次)						
		河 川			人豆細木仕田 🐧	
		有馬川	志染川	明石川	伊川	全国調査結果 ※ (化学物質環境実態調査等)
		月見橋	坂本橋	上水源取水口	二越橋	
PCB類(total-PCB)	(ng/L)	0.026	0.045	0.12	0.13	0.012~11
アルドリン	(ng/L)	0.0024	0.0004	0.0025	0.0037	N.D.~0.022
ディルドリン	(ng/L)	0.087	0.055	0.11	0.14	$0.0027 \sim 0.94$
エンドリン	(ng/L)	0.0040	0.0048	0.0055	0.0055	N.D.∼0.12
ビスフェノールA	(μg/L)	0.01>	0.01>	0.01>	0.01>	0.0027~1.0
17β-エストラジオール	(ng/L)	0.1>	0.1>	0.1>	0.1>	0.15~1.7
エピクロロヒドリン	(mg/L)	0.00004>	0.00004>	0.00004>	0.00004>	指針値(0.0004mg/L) 超過地点が 3/663 ◇
PFOA	(ng/L)	8	6	24	52	0.24~100
PFOS	(ng/L)	10	3	3	7	0.026~24

表 4-6-3 化学物質環境実態調査結果(平成 22 年度)

PCB類 (塩素数別濃度)

調査項目 (ng/L)	有馬川 月見橋	河 志染川 坂本橋	川 明石川 上水源取水口	伊 川 二越橋	全国調査結果
塩化ビフェニル	0.001	0.004	0.005	0.004	
二塩化ビフェニル	0.018	0.022	0.030	0.033	
三塩化ビフェニル	N. D.	0.005	0.022	0.018	
四塩化ビフェニル	0.004	0.011	0.035	0.030	
五塩化ビフェニル	N. D.	N. D.	0.021	0.023	
六塩化ビフェニル	0.003	0.002	0.007	0.017	
七塩化ビフェニル	N. D.	N. D.	N. D.	0.002	
八塩化ビフェニル	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	
九塩化ビフェニル	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	
十塩化ビフェニル	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.	
トータルPCB	0.026	0.045	0.12	0.13	0.012~11

[※] エピクロロヒドリン (◇) を除き、平成 22 年度版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)による 平成 14 年度~平成 21 年度モニタリング調査結果。

[◇] エピクロロヒドリンは、平成21年度公共用水域水質測定結果(環境省公表資料)による。